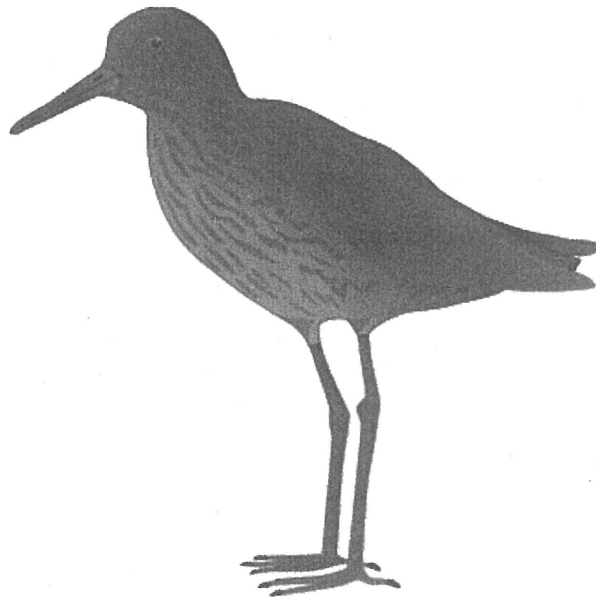


平成 23 年度 霧多布湿原学術研究助成事業

霧多布湿原における

アカアシシギ *Tringa totanus* 繁殖後期の生息状況

およびジュンサイ沼周辺の鳥類相



特定非営利活動法人エトピリカ基金

## 霧多布湿原におけるアカアシシギ *Tringa totanus* の生息状況 およびジュンサイ沼周辺の鳥類相

青木則幸、田畑伊織、片岡義廣

特定非営利活動法人エトピリカ基金

### 目的

アカアシシギ *Tringa totanus* は我が国では数少ない旅鳥とされていたが 1972 年に別海町野付半島で繁殖が確認され、その後風蓮湖周辺(根室市、別海町)、温根沼(根室市)、霧多布湿原(浜中町)などで繁殖が確認された。しかし、詳細な調査がなされないまま各地においてその個体数は減少しつつある(片岡, 1994. 日本野鳥の会十勝支部, 2010.)。この繁殖地の西端にあたる霧多布湿原においても近年、アカアシシギが激減しているため、NPO 法人エトピリカ基金では昨年度霧多布湿原学術研究助成の援助を受け、霧多布湿原を流れる河川に沿ってセンサスを行うことにより霧多布湿原のアカアシシギと一般鳥類の現状を把握し今後のモニタリングに役立てることを目的に調査を行った。しかし、多くの沼が点在する湿原北部においては海岸沿いのごく一部である新川中下流域でしか調査できなかった。そのためアカアシシギの生息状況を解明するには更に広範囲の調査が必要であり、また、アカアシシギの孵化時期である 7 月には親が雛を連れて広範囲を歩き回ることが考えられ、より多くの個体が確認出来る可能性があるため、この時期の調査も必要であると考えられた(NPO 法人エトピリカ基金, 2011.)。

また霧多布湿原においてより詳細なアカアシシギの生息調査を行うためには国指定の天然記念物になっており立ち入り規制のある高層湿原がアカアシシギの繁殖には不適と考えられるため、これを避けて海岸に沿って並んでいる 10 本以上の砂丘列上が歩行可能であればここでラインセンサスを行うのが最も有効であると考えられた(NPO 法人エトピリカ基金, 2011.)。

以上の点を踏まえ、より詳細なデータを得るため平成 22 年度には 6 月に行った河川調査の時期を 7 月に変更し、また湿原北部のジュンサイ沼周辺のラインセンサス、湿原北部 4 カ所での夜間調査を加えて、平成 23 年度の霧多布湿原におけるアカアシシギ *Tringa totanus* の生息状況およびジュンサイ沼周辺の鳥類相調査を行った。

### 調査期間

河川調査：2011 年 7 月 7 日-8 日

夜間調査：2011 年 6 月-8 月

ラインセンサス：2011 年 6 月 18 日, 22 日, 23 日, 7 月 5 日, 7 日

## 調査方法

### 1. 河川調査

霧多布湿原は中央部の高層湿原部分 803.46ha が「霧多布湿原泥炭形成植物群落」として、国の天然記念物に指定されている。今回の調査では平成 22 年度の調査方法を踏襲し、このエリアに立ち入らないように湿原を流れる 5 本の川(一番川、二番川、琵琶瀬川、泥川、新川)を二人艇のシーカヤックを用いてルート上の出現鳥類を記録するという調査手法を用いた。昨年の調査において、各河川のシーカヤックでの遡上限界付近はカヤックの転回が非常に困難であり、草丈が高く見通しがきかない事が判明したため本年は川面でカヤックが転回できる範囲で河川を遡上した。出現鳥類は 8 倍の双眼鏡を用いた目視と鳴き声の聞き取りによって同定をおこなった。調査地はしばしば濃霧が発生し視界が効かないことが多く、更にシーカヤックは視点が低く現在地の把握が非常に困難なため GPS による調査ルートの記録を同時に行った。

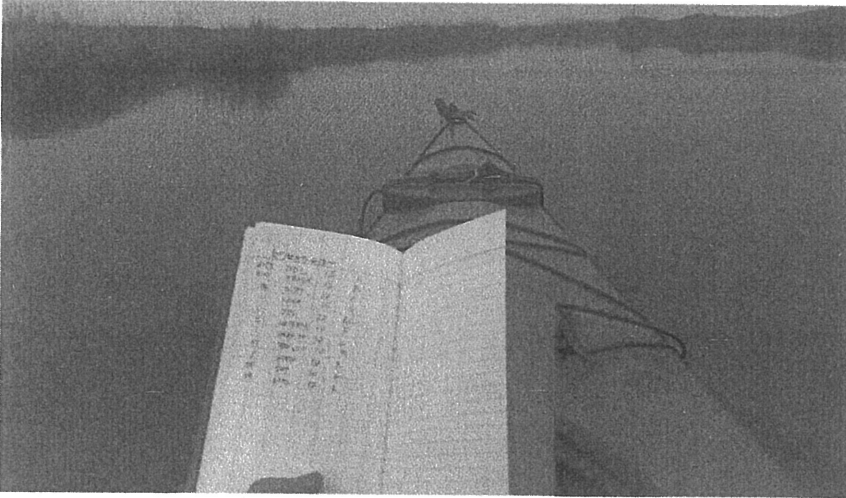


図 1. シーカヤック上での記録

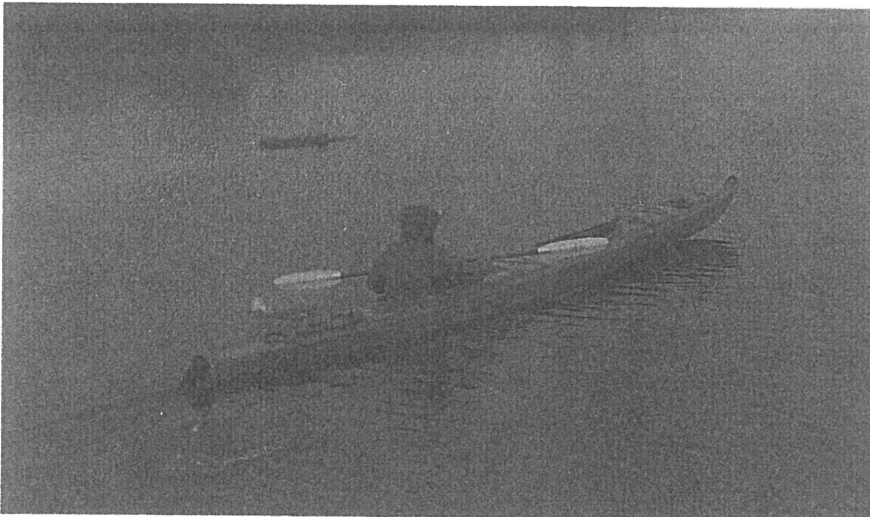


図 2. 調査に用いたシーカヤック二人艇

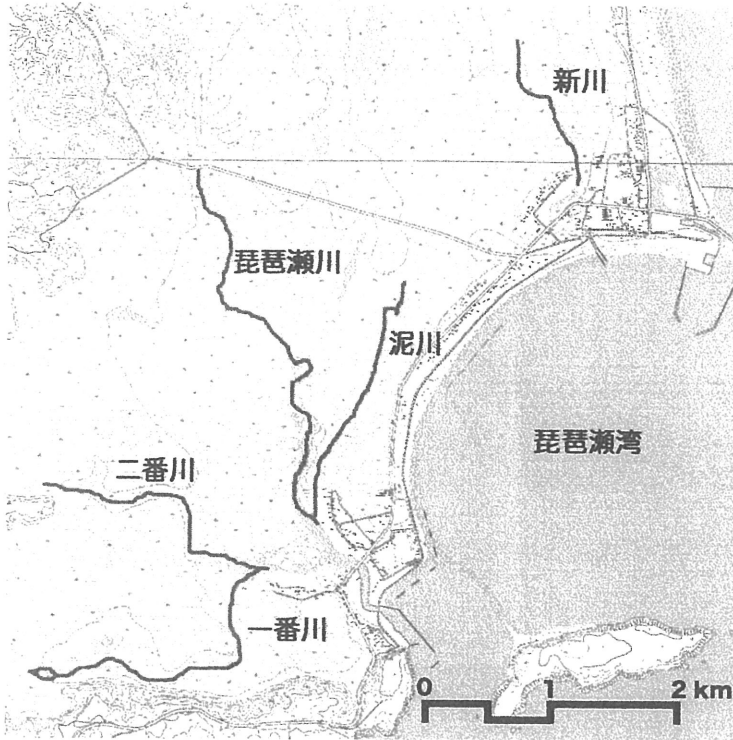


図 3. 各河川での調査範囲

## 2. ジュンサイ沼周辺の鳥類相調査

ジュンサイ沼は霧多布湿原北部にあるほぼ南北に細長い砂丘列に挟まれて形成された淡水の沼である。湖面一面にジュンサイが繁茂することからこの名が付けられている。周囲には高層湿原が広がり、大小の沼が点在している。昨年度調査を行えなかったこのエリアの鳥類相を把握するため、ラインセンサスと夜間調査を行った。

### ラインセンサス

ジュンサイ沼周辺の作業道跡約 1.6km を用いてラインセンサスを行った。記録は出現にとどめた。



図 4. ジュンサイ沼周辺の作業道跡を用いたラインセンサス





図.5 ジュンサイ沼周辺のラインセンサスルート

#### 夜間調査

タイマー録音機能のある IC レコーダーを湿原北部 4 カ所(図 8.)に、数日間設置し無人録音を行い、録音された鳥の声をコンピュータ解析することで、その周辺の鳥類相を調べた。録音時刻はノイズの多い夕方を避け 0:00-3:00 に行った。その際、IC レコーダーがむき出しの状態では防水に不安があるため本体をラップでくるんだ上、塩ビ管で作ったハウジングに収納して用いた(図 6.)。また、その補足としてジュンサイ沼周辺で夜間センサスを行った。



図 6. 防水処理し設置した IC レコーダー

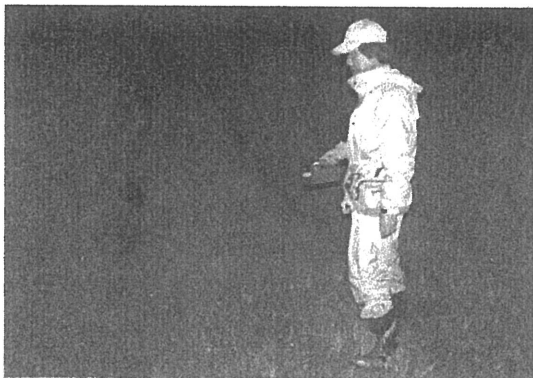


図 7. 夜間のセンサス



図8. 夜間調査、ICレコーダー設置位置

①ジュンサイ沼 ②海岸湿地 ③新川上流 ④若山沼

## 結果

### 河川調査

7月7日

一番川と二番川の調査をおこなった。琵琶瀬川河口右岸の集落の外れから調査を開始し、図1.に示したルートをどちらの河川も往復した。各河川最上流部での反転はシーカヤックで航行可能な限界位置でおこなった。当日の天候と調査時刻は以下のとおり。

二番川 4:40-5:44 曇り(霧)視界 1500m 風力 0

一番川 5:44-7:09 曇り(濃霧)視界 300-500m 風力 0

泥川 7:24-8:24 曇り視界クリア 風力 0



図9. 二番川下流

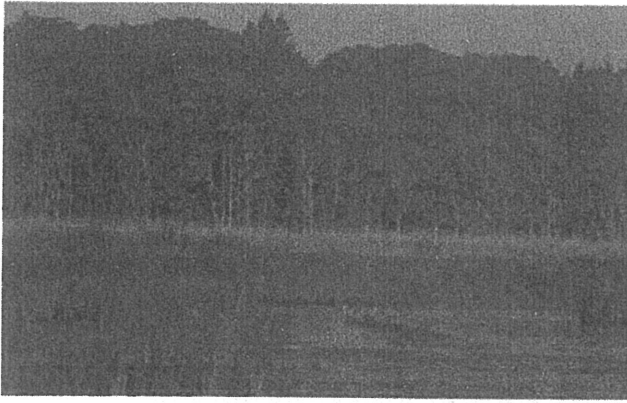


図 10. 二番川中流、ヒナを守ろうと偽傷するカワアイサの♀

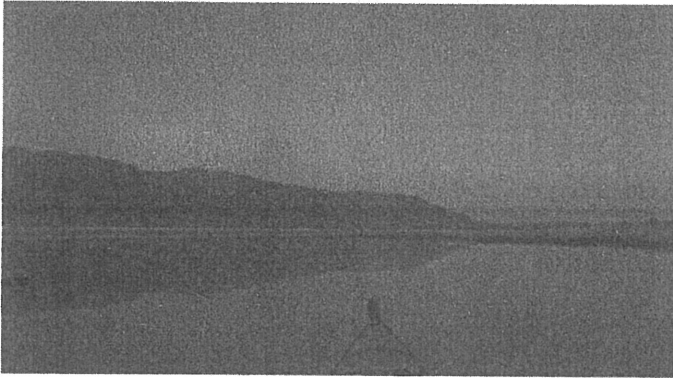


図 11. 一番川中流の湿地と段丘面の森 今まさに霧が入ってこようとしている

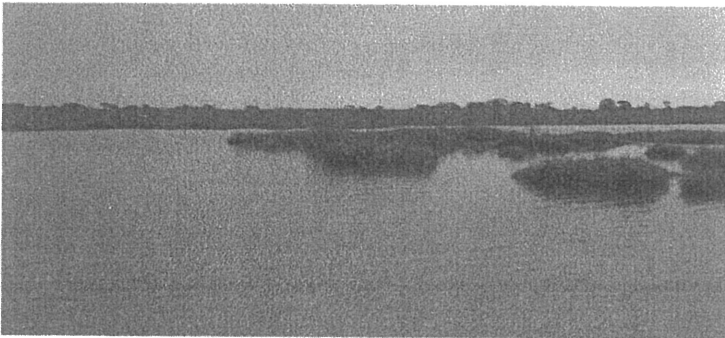


図 12. 泥川下流



図 13. 泥川中流

7月8日

新川、琵琶瀬川の調査をおこなった。

天候と調査時刻は以下のとおり。

新川 5:24-6:08 曇り 視界クリア 風力0

琵琶瀬川 6:58-7:56 曇り(濃霧) 視界300m 風力0



図 14. 新川下流



図 15. 新川中流、マガモの親子



図 16. 琵琶瀬川中流を飛ぶアカアシシギ



図 17. 琵琶瀬川中流

#### 各河川でのアカアシシギの出現状況

アカアシシギは合流河口の湿地(図 13)、琵琶瀬川中流(図 14)、新川(図 15)で出現した。



図 18. アカアシシギ出現地点-合流河口及び二番川、一番川

- ①7月7日に河川合流河口の湿地でアカアシシギ2羽の音声を確認された。
- ②7月7日にアカアシシギ1羽の音声を確認された。
- ③7月7日にアカアシシギ1羽の音声を確認された。
- ④7月7日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ5羽を確認された。2-3番の繁殖の可能性が高いと考えられる。ただし②及び③と重複の可能性はある。

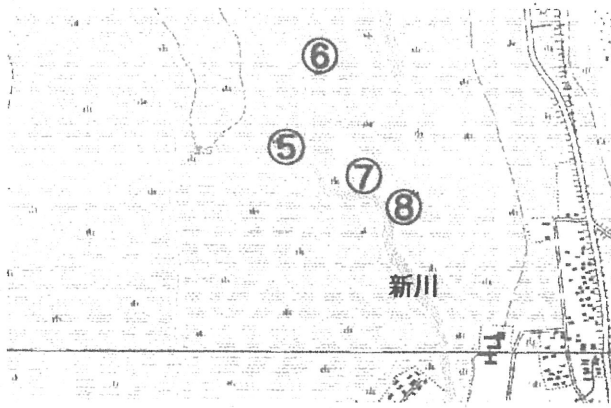


図 19. アカアシシギ出現地点-新川

- ⑤7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ1羽の姿が確認された。
- ⑥7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ2羽の姿が確認された。
- ⑦7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ2羽の姿が確認された。
- ⑧7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ3羽の姿が確認された。
- ⑤と⑥、⑦と⑧はそれぞれ重複の可能性があるものの2-4番が繁殖している可能性がある。



図 20. アカアシシギ出現地点-琵琶瀬川中流

- ⑨7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ3-4羽の姿が確認された。
- ⑩7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ2羽の姿が確認された。
- ⑪7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ2羽の音声のみが確認された。
- ⑫7月8日に警戒音を出しながら飛翔するアカアシシギ2羽の音声のみが確認された。
- 全体で3-4番が繁殖している可能性がある。



## 河川調査での出現鳥類

全調査期間中 44 種の鳥類が確認された。全ての調査河川で確認されたのはマガモ、カワアイサ、オジロワシ、タンチョウ、ヒバリ、シマセンニュウの 6 種であった。道東の他の地域に比べマキノセンニュウ(すべての河川で出現)の個体数が多い印象を受けた。

各河川の鳥相の特徴は以下のとおり。

一番川：湿原のへりの段丘沿いを流れているためアオバト、コマドリ、エゾムシクイ、ヒガラ等の森林性の鳥類が確認された。

二番川：今年度の調査では昨年度と違い上流部の調査を行わなかったため森林性の鳥類がほとんど確認されなかった。また昨年に比べより上流部でアカアシシギが確認された。

琵琶瀬川：湿原の中央部を流れているため草原性鳥類が主に確認された。キンクロハジロが記録され繁殖の可能性はある。

泥川：他の河川に比べて環境に多様性がないためか最も種類数が少なかった。

新川：昨年に続いてここでのみ、オカヨシガモが記録された。繁殖の可能性が高いと思われる。



図 21. 今回確認された世界的希少種カラシラサギ 2 羽

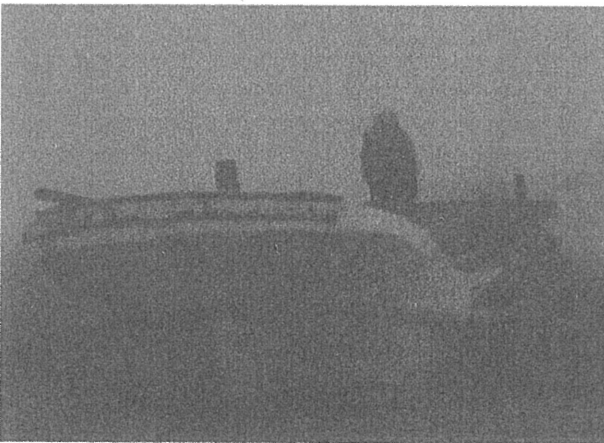


図 22. 湿原の生態系の頂点、オジロワシ

表 1. 霧多布湿原での調査河川ごとの出現鳥類(7月7日、8日)

目	種名/河川名	一番川	二番川	琵琶瀬川	泥川	新川
コウノトリ目	カラシラサギ		○			
	アオサギ			○	○	○
カモ目	マガモ		○	○		○
	オカヨシガモ					○
	キンクロハジロ			○		
	スズガモ	○		○		
	カワアイサ	○	○	○	○	○
タカ目	トビ	○		○	○	
	オジロワシ	○	○	○		○
ツル目	タンチョウ	○		○		
	クイナ			○		
チドリ目	コチドリ					○
	アカアシシギ	○	○	○		○
	キアシシギ					○
	オオジシギ	○	○	○	○	
	オオセグロカモメ				○	○
	ウミネコ	○			○	○
ハト目	アオバト	○				
カッコウ目	カッコウ		○	○		○
	ツツドリ	○	○			
アマツバメ目	アマツバメ		○			
スズメ目	ヒバリ	○	○	○	○	
	ショウドウツバメ			○	○	○
	ツバメ					○
	ハクセキレイ	○		○		
	コマドリ	○				
	ノビタキ		○	○	○	
	ウグイス	○	○			○
	シマセンニュウ	○	○	○	○	○
	マキノセンニュウ	○	○	○	○	○
	コヨシキリ	○	○	○	○	○
	エゾムシクイ	○				
	センダイムシクイ	○	○			
	ヒガラ	○				
	アオジ	○	○			
	オオジュリン	○	○	○	○	○
	カワラヒワ	○			○	○
	ハシボソガラス		○			
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○
種類数	39種	24種	20種	21種	15種	20種

○は一カ所でしか確認されなかった種

今年新たに確認された種 : カラシラサギ、アオサギ、キンクロハジロ、クイナ、キアシシギ、オオセグロカモメ、ツバメ、ショウドウツバメ、ヒガラ

昨年は確認されたが、今回確認されなかった種 : ヨシガモ、コガモ、オナガガモ、アリスイ、ビンズイ、サンショウクイ、ノゴマ、クロツグミ、キビタキ、エゾセンニュウ、ベニマシコ、カケス



### ジュンサイ沼周辺の鳥類相

ジュンサイ沼周辺では29種の鳥類が確認された。沼が点在する道東の海岸草原の典型的な鳥類相と言って良いと思われる。また沼が止水であるため、河川調査では記録されなかったアカエリカイツブリが確認された。

表2. ジュンサイ沼周辺のラインセンサスによる確認鳥類

目	種名/調査月日	6月18日	6月22日	6月23日	7月5日	7月7日
カイツブリ目	アカエリカイツブリ	○		○		
コウノトリ目	アオサギ					○
カモ目	マガモ			○		
タカ目	トビ				○	○
	オジロワシ				○	
ツル目	クイナ	○	○		○	
チドリ目	コチドリ		○			
	オオジシギ	○	○	○	○	○
	オオセグロカモメ				○	○
カッコウ目	カッコウ	○	○	○	○	○
	ツツドリ		○	○	○	
アマツバメ目	アマツバメ				○	
キツツキ目	アリスイ			○	○	
スズメ目	ヒバリ		○	○		
	ビンズイ		○	○	○	○
	ノゴマ	○	○	○		
	ノビタキ	○	○	○	○	○
	ウグイス		○	○	○	○
	シマセンニュウ	○	○	○	○	○
	マキノセンニュウ	○	○	○	○	○
	コヨシキリ	○	○			
	センダイムシクイ	○	○	○	○	○
	ヒガラ		○	○		
	アオジ	○		○	○	○
	オオジュリン	○	○	○	○	○
	カワラヒワ	○	○	○	○	○
	ベニマシコ	○	○			○
	ハシボソガラス			○		
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○
種類数	29種	15種	19種	20種	19種	16種

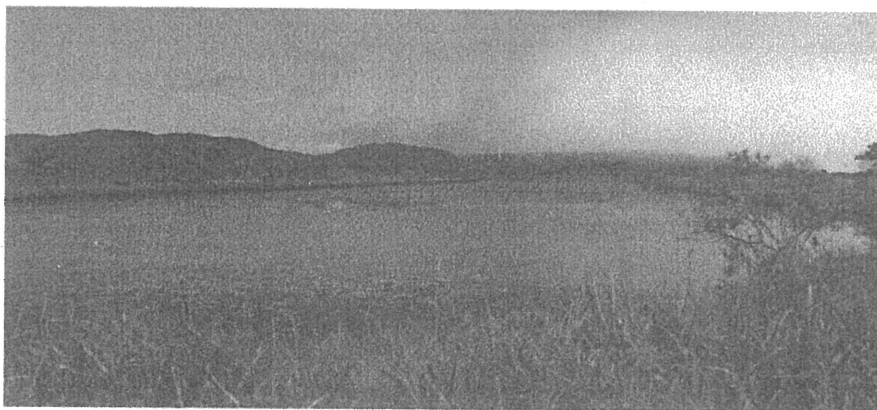


図23. ジュンサイ沼

表 3. 湿原北部での夜間調査による確認鳥類

目	調査地	ジュンサイ沼	海岸湿地	新川上流	若山沼
	種/調査月日	7月6-7日, 25-28日	7月18-22日	8月3-6日	8月9-11日
コウノトリ目	アオサギ			○	
カモ目	マガモ				○
ツル目	タンチョウ	○			
	クイナ	○	○	○	
チドリ目	コチドリ	○			
	メダイチドリ		○		
	オオジシギ	○	○	○	
	オオセグロカモメ		○		
	ウミネコ		○		
カッコウ目	カッコウ		○		
フクロウ目	フクロウ				○
スズメ目	ノゴマ	○			
	ノビタキ	○			
	エゾセンニュウ			○	
	シマセンニュウ	○	○	○	
	マキノセンニュウ	○			
種数	16種	6種	7種	5種	2種

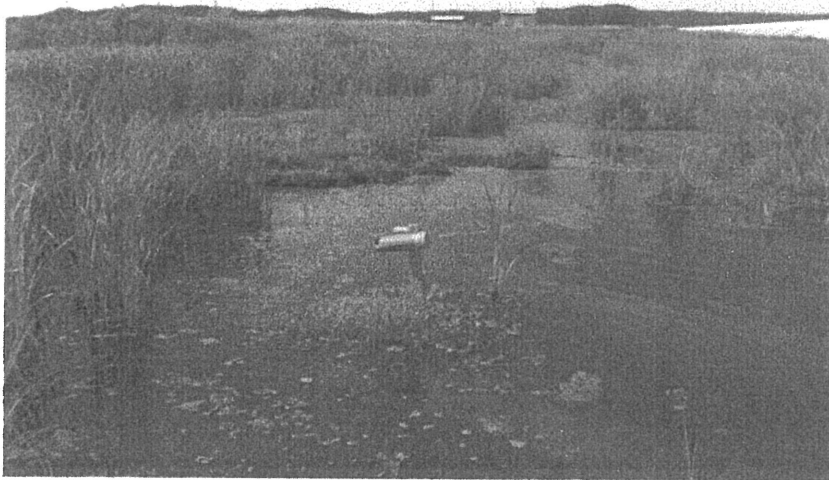


図 24. 海岸湿地に設置した IC レコーダー



図 25. 新川上流



図 26. 若山沼

### 考察

今回の調査では 7-11 番のアカアシシギが湿原内の泥川を除く河川の下流域から中流域で繁殖していると推定された。これは昨年度の結果を踏まえた上で調査を行ったため、現在の霧多布湿原でのアカアシシギの分布はほぼすべてであると考えられる。これはアカアシシギの採餌に好適な環境と考えられる干潟状の湿地は湿原北部には新川流域、南部には一番川、二番川、琵琶瀬川の流域にしか存在せず、湿原の大小の沼にはアカアシシギの繁殖記録のある根室市春国岱や別海町野付半島とは異なり、干潟状の地形が存在しないためアカアシシギの生息には不適と考えられるからである。しかし、一番川中流域の広大な干潟の周辺にアカアシシギがみられない理由は分からない。この点の解明は今後の課題である。

また、夜間調査によりこれまで霧多布湿原で記録されていない鳥類種の確認が期待されたが今回は残念ながらそれには至らなかった。理由としては 6-7 月の天候不順により夜間調査が思うように出来なかったこと、予想以上にアマガエルの声がうるさかったこと(夜中の 1 時半にはかなり鳴き止むことが今回判明)が挙げられる。しかし霧多布では初の試みであり、今後他の調査にも活用出来る見込みができた収穫は大きかったとおもわれる。

### 謝辞

本研究は昨年に引き続き、霧多布湿原学術研究助成の援助を受けて行ったものである。この機会を与えていただいた浜中町役場には深い感謝の意を表す。また、夜間調査における鳥類の音声解析には「ネイチャーサウンド」の上田秀雄氏にお忙しい中、多大な御協力をいただいた。深く御礼申し上げます。

### 引用文献

- 片岡義廣, 1994. 浜中町の鳥. 浜中町教育委員会, 浜中.  
日本野鳥の会十勝支部, 2010. 北海道東部鳥類目録.  
NPO 法人エトピリカ基金, 2011. 霧多布湿原におけるアカアシシギ *Tringa totanus* の生息状況および河川沿いの鳥類相.